

フスマガイ *Clementia papyracea* (Gmelin)

【選定理由】

本種は、湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯から水深約 100 m までの砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化している、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、個体数とも激減している。1999 年からの 3 回 (30 地点以上) におよぶ知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部でのドレッジによる調査では、死殻も採集されなかった (木村, 2000; 木村, 未発表資料)。

2000 年代までは渥美外海の水深 50 m 以深で操業する底引き網漁で生貝が稀に混獲されていたが、近年渥美外海からも死殻さえほとんど採集されない。このような生息状況から絶滅の可能性が非常に高い種であり、前回 (VU) よりランクアップするべき種と評価された。和田ら (1996) では危険とランクされている。

【形態】

殻長約 8 cm で、殻質はやや薄く白色、生時殻表は薄い淡褐色の殻皮で覆われる。膨らみが強い。殻頂部は高くなり、成長脈は強く波打つ。



上段：南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 10-20 m), 1994 年 10 月 3 日, 下段：名古屋市名古屋港沖(コアサンプラー水深 15 m), 2009 年 5 月 30 日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少し、内湾域では生貝が採集されない。2009 年には名古屋港沖からも死殻が採集された。殻皮が残されており、現生個体であると判断されるが、古い死殻で生息を証明する試料とは言えない。また近年、外洋域の個体群も確認できない状態が続いている。英虞湾 (三重県) の潮下帯では近年も生貝が確認されている (木村, 未発表資料)。

【世界及び国内の分布】

日本、東南アジア。国内では北海道以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。近年内湾域では生息が確認できない。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

南西諸島以南に分布するカミブスマ *Clementia papyracea* Gray (国：準絶滅危惧) とは形態的に近似し、分類学的な再検討が必要で、分子系統解析が望まれる (久保, 2012)。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

久保弘文, 2012. カミブスマ, p. 147. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)